

令和6年度企画展 「行者塚古墳の埴輪と土製品」

行者塚古墳は、墳丘に4つの造り出しをもつ全長99mの前方後円墳で、人塚古墳、尼塚古墳とともに国史跡「西条古墳群」を構成しています。昭和48(1973)年に国の史跡指定を受け、令和5(2023)年で指定50年という節目の年を経ました。

行者塚古墳では平成7・8年に発掘調査が行われており、後円部で多種多量の副葬品を収めた「副葬品箱」が発見されたほか、墳丘の各所から様々な埴輪や土器、土製品が出土し、多くの人々の注目を集めました。

その後、緻密な整理作業を経て、令和6年3月に正式な発掘調査報告書『行者塚古墳-墳丘・造り出し篇-』が刊行されました。この報告書では、特に墳丘や造り出し、古墳から出土した埴輪などについて詳細な報告が行われています。

そこで今回の企画展では、これまでに公開したことのない行者塚古墳の埴輪をはじめ、土器や土製品を多数展示し、この発掘調査報告書で明らかとなった最新の成果を紹介します。また、行者塚古墳の資料とあわせて、人塚古墳、尼塚古墳の埴輪も展示します。

【企画展に関する問い合わせ】
加古川市教育委員会 文化財調査研究センター
〒675-0101 加古川市平岡町新在家 1224-7
TEL：079-423-4088



行者塚古墳西造り出し



行者塚古墳出土円筒埴輪・壺形埴輪

【施設（博物館）に関する問い合わせ】
加古川総合文化センター
〒675-0101 加古川市平岡町新在家 1224-7
TEL：079-425-5300

写真提供：大手前大学史学研究所